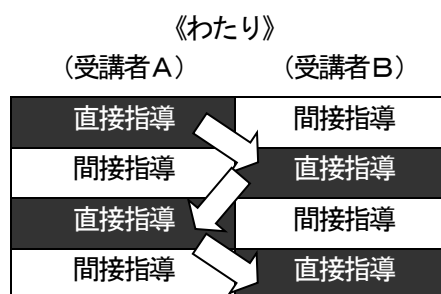


## VII. 複式指導（進度の違う複数の受講者を同時に指導するには）

「複式指導」とは、一人の講師が、コースや学習進度の異なる学習者集団を同じ教室内・同じ時間内に指導する形態です。複式での指導は、受講者個々人の特性に応じた学習をしながら、受講コースやレベル、状況が異なる帰国者との交流も期待でき、同時に、遠隔学習の基本となる自学自習力の養成に適した指導形態です。

まず、複式のスクーリング指導計画を立てるのに必要な考え方、「直接指導」「間接指導」「わたり」について紹介します。

- 直接指導：講師が受講者と対面で行う指導。対面でしか行えない指導、または、対面でより効果が得られる指導を行います。（例：コミュニケーション活動、解説、質問受け、間接指導の指示・導入など）
- 間接指導：講師が受講者に課題を示し、直接対面しないで行う指導。受講者は基本的に一人で自学自習をするので、内容的にはその受講者が一人でも行える内容となります。（例：達成・定着度の自己チェック、自学自習方法の練習・習熟、応用練習、学習計画作成など）
- わたり：直接指導を行う際に、一つの受講者（群）から別の受講者（群）に移動することを指します。



複式のスクーリング指導計画を考えるときは、それぞれの受講者（群）に合う直接指導と間接指導をうまく組み合わせ、かつ講師がうまくわたっていけるような計画を立てることが必要になります。以下は、指導計画を立てるときの手順、指導計画例、留意点です。

- 複式のスクーリング指導計画を立てるときの手順
  - (1) 受講者それぞれの学習内容と活動の流れを考える
  - (2) 受講者それぞれの直接指導、間接指導の内容、活動方法、時間について決める
  - (3) 直接指導の順序を決める（＝講師のわたり方を考える）
  - (4) 質問受けの時間をどこに組み込むか決める
  - (5) 直接指導、間接指導で使用する教具、教材、ワークシートなどを準備する

●複式スクーリングの指導計画例（120分の場合）

●Aさん	直接（黒） 間接（白）	●Bさん
自宅学習の確認と今日の予定	5'	自宅学習の確認と今日の予定 間接指導の指示
<b>直接指導</b> ・学習範囲の口頭チェック ・会話練習 ・応用会話 ・コミュニケーション活動 等	25'	<b>間接指導</b> ・学習範囲の自己チェック ・練習 ・暗記 ・自学自習の練習 等
<b>間接指導</b>	25'	<b>直接指導</b>
休憩	10'	休憩
<b>直接指導</b> 〈質問を受ける〉	20'	<b>間接指導</b>
<b>間接指導</b>	20'	<b>直接指導</b> 〈質問を受ける〉
<b>間接指導のチェック</b>	5'	<b>本日の復習</b>
<b>本日の評価と次回の約束</b>	10'	<b>本日の評価と次回の約束</b>

●複式のスクーリング指導計画を立てるときの留意点

(1) 時間配分、順番は適当か

- ・一方にかける直接指導の時間、指導形態と時間配分は適当か（人数のバランスなどにより、一方に重点を置く場合もあるが、その場合でも受講者全員が平等になるよう配慮されているか）
- ・最初の直接指導の順番は適当か

(2) 直接指導／間接指導という指導形態の特徴を踏まえて、目標に合った学習内容、活動が計画されているか

(3) 受講者にとって流れのある学習になっているか（直接指導が間接指導の準備になっているか、また、間接指導が直接指導につながるよう計画されているか）

(4) 自学自習技術の習得を促進する、または試す活動が計画されているか

(5) 間接指導の課題は、適当な内容、量、形で計画されているか

(6) 予想外の展開をした場合の対応策は考えられているか

実際には、スクーリング当日受講者と会ってみて、自宅での自習のでき具合やその日の受講者の希望、学習項目の理解度、到達度などによって、(6)のように計画を変更して柔軟に対応していくことが迫られる場合も多くあります。上記の留意点の(1)～(5)は、その場その場で対応を決めていく場合の判断基準ともな

りますので、実際の指導でも心に留めておいていただきたいと思います。

また、せっかく複数の受講者が集まるのですから、講師とだけでなく、受講者同士でも一緒に学習・交流する時間を持ちたいものです。違うコースを受講している受講者の場合、スクーリングの始めや終わり近く、また休憩のときに自由会話の時間を設けて、近況やニュースの話題などで交流することもできるでしょう。同コースを受講していて進度の違う受講者同士の場合、コースの学習項目に関連した話題で日本での経験や情報交換などで学習・交流することも可能でしょう。また、一方が同コースを受講、進度も同じ受講者同士の場合、もう一方の直接指導をしている間に、間接指導の課題として、二人でご本人たちのことについて会話・交流練習をしてもらうこともできるでしょう。受講者の組み合わせによっていろいろなパターンが考えられ、また工夫の余地の大きいところとも言えます。複式においては、個別の学習の対応と受講者同士の交流の両方を視野に入れつつ、比重のかけ方のバランスも考慮に入れて、参加者が他の受講者と一緒に学習する効果が感じられるようなスクーリングをコーディネートしていただければと思います。

次ページ以降に【資料1】として「複式指導によるスクーリング計画（例）」、【資料2】として《 間接指導の種類と例 》を収めました。次ページ以降もご参照ください。

## 【資料 1】

## 【複式指導によるスクーリング計画（例）】

- スクーリングの条件：月 1 回
- 参加者のプロフィールと受講コース等：
  - ・Kさん（45 歳）女性 「入門日本語文法文型」コース受講 来日 1 年
  - ・Mさん（35 歳）女性 「入門日本語文法文型」コース受講 来日 4 年
- Kさん・Mさんの初期のスクーリングを実施した後、以下のような個別の「個別の受講コース到達目標」を立てました。そして 4 回目スクーリング実施状況（実施結果）から、5 回目のスクーリングでのそれぞれの達成目標を以下のように立てました。

	●Kさん	●Mさん
受講コースの到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語の文字（平仮名／カタカナ／簡単な漢字）の読み書きができるようになる</li> <li>・日常生活で使う最低限の単語／表現を身につける</li> <li>・自分についての身近な事柄に関して基本的なやりとりができる</li> <li>・本コースで学習する文法項目について理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本コースで学習する文法項目について理解し、運用できる</li> <li>・日常生活の中のコミュニケーションに必要な最低限の語彙表現を身につける</li> <li>・学習範囲の語彙・表現を使って日常的なやりとりができる</li> </ul>
スクーリングの実施状況（4 回目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スクーリング 4 回目 課題未返信</li> <li>●学習範囲：「始めてみよう・話してみよう I」 1 課 名詞文</li> <li>・2 課の予定だったが、1 課のチェックをしたところ、単語レベルもほとんど入っておらず、聞き取りも発話もできないので 1 課の範囲を行った</li> <li>・CD を使って単語を覚える練習をした後、その場でチェック。覚えきれず間違うこともあったが、7 頁の単語の半分ぐらいはヒントを出しながら言えた</li> <li>・50 音図は間違えつつも読めないことはないが、単語やテキストの自己紹介の短い文は全く読めない</li> <li>・自己紹介は本人の場合を導入した。「はじめまして。私は K です。出身地は黒竜江省です。家族は 2 人です。」の 4 表現に限定して練習した</li> <li>●次回のスクーリングでの学習範囲予定                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・練習した自己紹介を覚えてくる</li> <li>・単語や短い文の平仮名を読めるようにする</li> </ul>                     →スクーリング直前の学習確認：家庭学習状況は「まあまあ」とのこと                 </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スクーリング 4 回目 課題 2 回提出</li> <li>●学習範囲：「始めてみよう・話してみよう I」 6 課 動詞文と助詞</li> <li>・自宅学習は現在 11 課を始めたところのこと。6 課の学習項目（助詞のまとめ）はとても良く整理できていた。本人は文法は良いが会話が駄目だと言っていたが、ゆっくりではあるが助詞を意識しての会話練習もかなり正確にできた</li> <li>●次回のスクーリングでの学習範囲予定                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・7 課「疑問詞」、8 課「辞書形」の範囲の語彙表現を使って会話練習を中心にやる</li> </ul>                     →スクーリング直前の学習確認：予定通り 7～8 課の範囲の会話練習をやりたいとのこと。7 課は簡単、8 課は少し難しいところもあったとのこと                 </li> </ul>

5回目のスクーリングの達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な自己紹介ができる</li> <li>・平仮名50音図の読み書きができる</li> <li>・1課の単語（P7, P20）、単文（自己紹介／会話1）が読めて、その意味が理解できる</li> <li>・1課の単語の中国語を見たら相手にわかる範囲の発音で言える</li> </ul> <p>※余裕があれば以下</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名詞文の非過去肯定否定の文章の見分けが付く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7課で出てくる疑問詞が正しく使える</li> <li>・7課で学習した疑問詞を使ってやりとりできる（会話1、2とそのバリエーション）</li> <li>・辞書形の作り方がわかり「ます形」からの活用変換ができる</li> <li>・辞書形を使った簡単なやりとりができる（会話1、2とそのバリエーション）</li> <li>・7、8課で出てきた基本的な単語を覚える</li> </ul>
-----------------	---	---

#### 4. 5回目の複式指導によるスクーリング計画案

※太字「 」は間接指導のために作成した自習課題

●Kさん（1課「名詞文」）	直接（黒） 間接（白）		●Mさん（7課「疑問詞」8課「辞書形」）
・1ヶ月の学習状況確認と今日の学習範囲と学習方法について説明	5'		・1ヶ月の学習状況確認と今日の学習範囲と学習方法について説明 ・間接指導についての指示
・前回練習した自己紹介のチェック ・自己紹介発展練習（+家族構成、趣味、仕事導入）	20'	20'	・「 <b>7課疑問詞と単語チェック問題</b> 」 ・7課「会話1（王さん）／2（田中さん）」のCDを聞きながら、指示されたパートを、中文を見て言えるように練習
・「 <b>平仮名50音表完成問題</b> 」 ・1課単語（P7）読み練習（CDを使って）→意味を覚える ・自己紹介練習	20'	20'	・「7課疑問詞と単語チェック問題」のフィードバック ・7課「会話1、2」をTとやりとり ・会話1、2の話題を使ってMさんに関する事でやりとり
・平仮名50音字体、読みチェック →問題のある字体、発音指導 ・単語チェック 聞き取り判別→読みチェック ・中文単語を見て日本語を言う ・ <b>〈質問を受ける〉</b>	20'	20'	・「 <b>辞書形チェック問題</b> 」 ・8課「会話1（①王②田中）／2（①田中②後輩）」のCDを聞きながら指示されたパートを、中文を見て言えるように練習
休憩 10'			
・50音書き、発音復習 ・テキストの「自己紹介」か「会話1」のどちらか一つ、CDを使って読み練習を行う。（自己紹介ができていなかったら「自己紹介」、できていたら「会話1」）	20'	20'	・「辞書形チェック問題」のフィードバック ・8課「会話1、2」をTとやりとり ・「会話1、2」の話題を使ってMさんに関する事でやりとり ・ <b>〈質問を受ける〉</b>
・テキスト「会話1」の読みチェックと意味の理解 ・「会話1」の内容について、Kさんの家族についてやりとり ・余裕があれば… 名詞文「肯定／否定」について理解度をチェック	15'	15'	・Mさんの日課を辞書形を使って作文する
・復習	5'	5'	・Mさんの作文フィードバック
・次回の約束	5'	5'	・次回の約束

【資料2】

《 間接指導の種類と例 》

	素材	課題の形	主な目的	間接指導の課題の内容・活動(例)
1	テキストの抜粋	プリント	定着度チェック／習熟練習	(1) 単語表の穴埋め(日→中／中→日)
2	課題の抜粋			(2) 活用表の穴埋め
3	講師作成			(3) 文法練習問題回答 (4) 例文の翻訳(和文中訳／中文和訳) (5) 表現文型短文作文 (6) 会話文の穴埋め (7) 会話文の翻訳(和文中訳／中文和訳) (8) 日本事情や知識の確認問題回答 (9) ロールプレイ準備 (10) 練習／自己チェックを並べ替え問題回答 (11) 重点練習問題回答(上記以外の例: 運転免許学科試験問題)
4	テキスト、付属教材	テキスト／付属教材	自学自習技術の習得／習熟練習	(12) 受講コースの教材の使用法・学習順序に則り、付属のCDや解答等も使いながら自学自習を試みる (13) 練習問題や課題に取り組む過程でわからない時の、教材・目次・索引等の使い方練習 (14) テキストや付属教材にインデックスを付け、自分用に辞書的に使えるようにカスタマイズする (15) 単語表の日本語部分・中国語訳部分を隠して暗記／発話練習 (16) 会話例の日本語部分・中国語訳部分を隠して暗記／発話練習 (17) なかなか覚えられない単語や表現に印を付けて重点的に学習する (18) 自分専用の録音テープを講師と作るための録音箇所をテキストから選ぶ (19) CDを使って、単語の聞き取り／暗記／発話練習 (20) CDを使って、表現の聞き取り／暗記／発話練習 (21) CDを使って、会話の聞き取り／発話練習 (22) CDを使って、場面会話の聞き取り／発話練習 (23) CDを使って、ロールプレイ準備  (19)～(23)を <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語を見ながら</li> <li>・中国語訳を見ながら</li> <li>・テキストを見ないで</li> </ul>
5	生活の中で使われているもの	印刷物／録音音声・ビデオ等	応用練習	(24) チラシ、パンフレット、時刻表、路線図、回覧板、通知、要項等の読み取り (25) 読み取り後、わからなかった部分を尋ねるための質問作り (26) 様々な書式等記入 (27) 過去の試験問題等回答 (28) 車内放送、館内放送等の聞き取り
6	その他	ノート／録音音声・ビデオ等 受講案内／課題／単語帳	学習の計画・調整・評価 自学自習技術の習得	(29) 自分専用の単語帳／表現ノートを作る (30) 以前に間違えた問題だけを集めたノートを作る (31) 受講案内を参考にして、学習目標を学習ペースや学習量等の計画を立てる (32) 自分の希望や生活状況に合わせて、学習項目の取捨選択を行う (33) 自分の学習状況に合わせて、学習ペースや学習量等を調整する (34) 間接指導の課題、センターの課題等、講師のチェックを受けたものを見直して、学習の成果と弱点を自分で確認する (35) スクーリング講師との会話やロールプレイ、面接練習などを録音／録画し、視聴してみて、学習の成果と弱点を自分で確認する